ご近所のお医者さん

630

南大阪病院
消化器内科部長　佐々木英二さん　＝大阪市住之江区

便潜血陽性なら大腸カメラ

早期発見・早期治療を

大腸がんは、わが国におけるがんの部位別死亡数で2位（女性では1位）です。大腸がんは、大腸カメラ検査で診断します。大腸カメラを受けるきっかけは、大腸がん検診で便潜血検査（検便）が陽性となった場合が多いです。当院の所在する大阪市住之江区では全国に先駆けて1988年、医師会、自治体、地域の連携による大腸がんの集団検診が実施され、これは「住之江方式」と呼ばれています。しかし、府内での受診率は低迷しています。

さらに残念なことには、検診で異常を指摘されても実際に医療機関で大腸カメラを受けるのは、その中の一部の方です。受診されない理由としては、痔からの出血が原因と思っていた▽全く症状が無いので検査は不要と自己判断をした▽仕事が忙しい▽検査を受けてがんが見つかるのが怖い▽特に女性の場合は検査が恥ずかしい――などが考えられます。しかしながら、検便は症状が出る前に大腸がんを早期に発見する目的で実施していますので、便潜血陽性の場合は必ず大腸カメラでの精密検査を受けてください。その結果ががんであった場合でも、早期がんの場合は大腸カメラでの治療（内視鏡治療）のみで完治となる場合が多いです。残念ながら、無症状の場合でも進行がんが見つかることもあります。その場合は、外科治療や抗がん剤治療が必要になります。

当院では2011年に消化器内科が創設されて以来、内視鏡（胃カメラ・大腸カメラ）による検査・治療を充実させてきました。現在、当院の内視鏡件数は年間1万件を超えるまでになり、府内でも屈指の内視鏡センターとなっています。また、件数が多いだけではなく、安心安全で苦痛の少ない内視鏡検査を心がけています。具体的には、鎮静剤を使い、眠った状態で検査を受けていただき、胃カメラ・大腸カメラ検査を同日にしています。また、ご希望があれば女性医師・スタッフのみでの検査も可能です。

大腸がんは、早期発見・早期治療により治る可能性が高いがんです。まずは必ず大腸がん検診を受けていただき、便潜血検査が陽性の場合は迷わず大腸カメラを受けましょう。